

# LPガス発電設備8kVAを寄贈 亶理町の住民交流・研修施設向け

株式会社シーエープラント（谷吉廣（たに・よしひろ）社長。☎075-863-3300。京都市右京区。正会員）では、2011年3月11日の東日本大震災で被災した宮城県亶理町で、内閣府のNPO法人セリアの会が主導して整備を進めている住民交流・研修施設『メノラー国際リーダーシップセンター』に対して、このほど、非常用LPガス発電設備8kVA×1基を設置し寄贈しました。同社は8月22日、亶理町と共同で「非常用LPガス発電設備の寄贈式典」を同リーダーシップセンター敷地内で開催しました。

式典後はシーエープラントの谷社長とエネルギー事業部の青木係長がそれぞれ講師を務めて「非常用LPガス発電設備の導入効果などに関する説明会」を行いました。当日は模擬停電を発生させ、実機を稼働させた視察も行いました。亶理町代表者と住民代表者の合計で30人余りが出席しました。

非常用LPガス発電設備の設置場所は、亶理町荒浜地区で整備中のメノラー国際リーダーシップセンター施設の敷地内。亶理町江下地区の中央工業団地で約6年間実際に使用されたプレハブ仮設住宅（2DK。約30㎡）×2棟を宮城県から譲り受けて、移設され改築されました。その一面に在ります。

**非常用LPガス発電設備は米国のGENERAC社製『ガーディアン』=写真=。**主な仕様は▼定格出力：8kVA▼定格電圧：単相200V/100V▼燃料：LPガス・都市ガス▼寸法：横1,232mm×縦648mm×高さ733mm▼重量：155kg▼騒音値：62db▼排気量：530cc▼回転数：1,500rpmなど。停電発生時には、プレハブ仮設住宅2棟に設置された電灯・エアコンなどの電気設備を中心に、パソコン・携帯電話などの通信機器も稼働させる「**保安用電源**」として使われる電源です。

プレハブ仮設住宅2棟を含めたメノラー国際リーダーシップセンター施設は竣工後、災害が発生した際に亶理町民の一時避難場所として利用が想定されています。内閣府のNPO法人『セリアの会（セリア・ダンケルマン理事長。東京都練馬区）』では、亶理町とも協議して、電灯・エアコン向け電力供給に加え、炊飯設備、湯沸かし設備、仮設風呂設備など様々なLPガス需要設備に対応できる「非常用LPガス発電設備」の導入を進めてきました。

「弊社では、災害被災地におけるエネルギー復旧時間を検証した結果、LPガス燃料は他の燃料に比べ、短時間で、調達・搬送・取り扱いの面でも容易であると評価しました。」（谷社長談）



「そのため、燃料切替スイッチを標準装備する事でLPガス・都市ガス両仕様に対応可能とし、また、ガスポンペを標準装備する事で72時間連続で給電可能とした「**保安用電源（業務用電源）**」である非常用ガス発電設備を始め、常用ガス発電設備の普及に注力しています。その取り組みの一環として、非常用LPガス発電設備を1セット寄贈させて頂きました。」（谷社長談）

主な特長は、燃料切替スイッチを標準装備してLPガスと都市ガスで発電できます。LPガス保有量は100kgで、約72時間連続で運転できます。停電発生時から約10秒後に自動起動し、約60秒以内に電力供給を開始します。商用電源が復旧したら、自動的に商用電源に切り替わります。さらに、シーエープラントが独自開発した「遠隔監視ユニット」を用いて、本社で、24時間365日発電設備の稼働状態や異常を定期的に監視します。週に1回など任意設定により自動的に5分間セルフチェック運転を行います。液晶表示付デジタルコントローラーを標準装備して発電設備の状態を確認しますとしています。

メノラー国際リーダーシップセンター施設の敷地は亶理町からセリアの会への借地。元駐日イスラエル国全権大使のエリ・エリヤフ・コヘン氏からの要請に基づき、セリアの会は東日本大震災4日後から亶理町を中心に、教育支援を続けています。集会所で芸術活動を通して「被災住民の心のケア」や、宮城県立亶理高校で外国語授業を通して自分の意見を自分の言葉で伝えられるよう「リーダーシップ育成研修」を実践しています。今後、被災住民の足跡や災害記憶を伝える歴史的施設として、プレハブ仮設住宅内部を一般公開する予定。

引き続き「中核施設として、メノラー国際リーダーシップセンター（鉄筋2階建て）の整備を推進して参ります。」（セリア理事長談）